営　農　だ　よ　り

令和5年4月

第 2 号

能美小松営農推進協議会
石川県農業共済組合加賀地区支所
能美農業協同組合

生産履歴とGAPを的確に記帳しましょう！

浅水で代かきし、田植え前に濁り水を排水しないようにしましょう！

5月田植えと1株3～4本植えで良質茎を!!

【田植え・初期管理のポイント】

※コシヒカリの田植えは5月に入ってから！風の強い日は植傷みするので田植えは控えよう

① 植え付け株数･･･**60株/坪**（高地力田･倒伏田では50株/坪）
② 植え付け本数･･･**3～4本/1株**（1～2本植えでも補植はしない）
③ 植え付け深さ ･･･**2cm程度**（深植えは分げつの発生が遅れます！）
④ 田植え後はすみやかに入水!! **活着までは5～10cm程度の深水管理**で植傷みを防ぐ
⑤ **活着したら2～3cmの浅水管理**(低温･強風時は深水)で、地温を上げ、稲を元気にしよう。
⑥ 水を入れるのは早朝か夕方。 昼間は水温を上昇させましょう。
⑦ 5月中下旬の温暖な日に水を落とし、軽い**田干し(ガス抜き)**を2～3回繰り返しましょう。

【除草剤の使用方法】

一発処理

除草剤散布後7日間は落水･かけ流しはしない

田植後日数 0 5 10 15 20 25		
代かき→田植え	エンペラー1キロ粒剤（1kg/10a）	雑草が多い圃場の一発処理 ノビエ3.0葉期まで
代かき→田植え	ガンガン1キロ粒剤（1kg/10a）	ノビエ3.0葉期まで
代かき→田植え	ディオーレ1キロ粒剤（1kg/10a）	ノビエ3.0葉期まで

省力除草方法

田植後日数 0 3 5 10 12 15 20 25		
代かき→田植え	エンペラージャンボ（250g/10a）	ノビエ3.0葉期まで
代かき→田植え	ディオーレ顆粒（80g/10a）	ノビエ3.0葉期まで

【エンペラージャンボ】
- 深水で散布する。
- 藻や表層はく離の発生している圃場では使用しない

ディオーレ顆粒】
- 水口より散布する流し込みタイプ
- 散布時は水深を3cmほど確保し散布し、水深が2cm以上アップしたら、散布完了。

一般的な体系処理

田植後日数 0 5 10 15 20 25		
代かき→田植え	マーシェット1キロ粒剤（1kg/10a）または クラール1キロ粒剤（1kg/10a） 田植え直後～5日に散布 ノビエ発生始期まで	エンペラー1キロ粒剤（1kg/10a） ノビエ3.0葉期まで
代かき→田植え		ディオーレ1キロ粒剤（1kg/10a） ノビエ3.0葉期まで
代かき→田植え		ガンガン1キロ粒剤（1kg/10a） ノビエ3.0葉期まで

レブラス粒剤　ヒエクリーン粒剤　クリンチャー粒剤

【散布方法】

①<u>田植え前の初期剤散布はしないで下さい。根から薬害が起こる可能性があります。</u>
②藻類･表層はく離の発生前に散布する。
③ジャンボ剤･豆つぶ剤は手散布で行う。
（幅30m以下のほ場では畦畔からのみの散布可能）
④ジャンボ剤･豆つぶ剤は**水深5cm**･**藻類発生前**に散布する。
⑤<u>前年と異なる品種を作付けするほ場では、漏生籾対策として初期剤(マーシェット1キロ粒剤)を散布する。</u>

【田植同時散布の注意点】

①代かきは丁寧に。田面を均平に。
②<u>水深はひたひたの状態</u>で田植えする。
③補植は行わない。
④強風の際は田植えを控える。
⑤薬剤散布後は高価を高めるため、すみやかに入水する。

除草剤は水が命！　散布後1週間は水を切らさずに！

倉庫でのネズミ防除のポイントは清掃の徹底！（駆除剤は絶対に使用しない）

補植苗の放置は葉いもちの発生源となりますので、早急に処分しましょう！

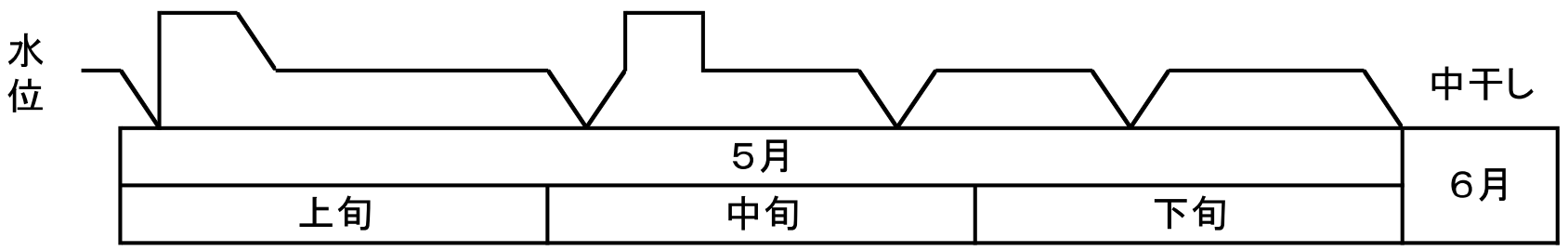
適切な初期管理は良質米への第一歩！！

【田植え後の水管理】

LINE登録はこちらから！
営農情報をお届けします！

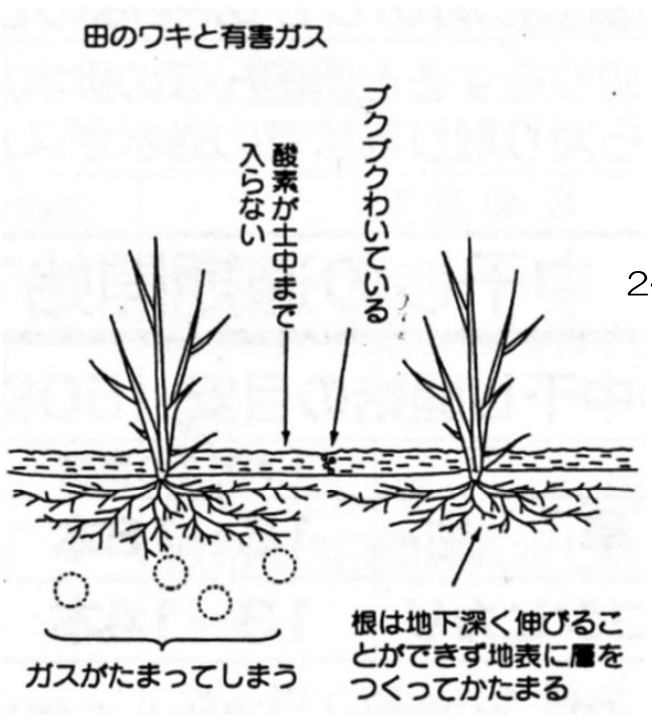
適切な管理により、初期生育の確保・健全な稲体の育成に努めましょう！

- 田植え後3～5日
  深水管理（5～10cm程度）
  で苗を保護
- 除草剤散布時は
  十分に水を入れる
- 日中は浅水管理（2～3cm）で、
  地温の上昇を図る

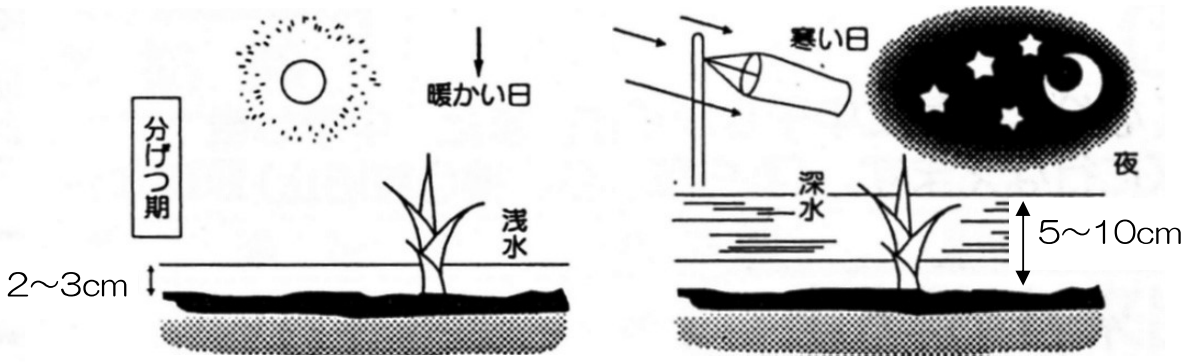


① 活着後は日中2～3cmの浅水管理を行い、朝に短時間の入水を励行し、田の水温・地温が上がるように努める。
② 中干しまでに田干しを2～3回行い、ガス抜きをし、根の張りを良くする。
※ 田植え後、低温が続く場合でも、出来るだけ暖かい日を選び、水の入れ替えを行う。
③ 6月初めには、「中干し」や「間断通水」をしやすくするため、**溝切り**を必ず実施する。

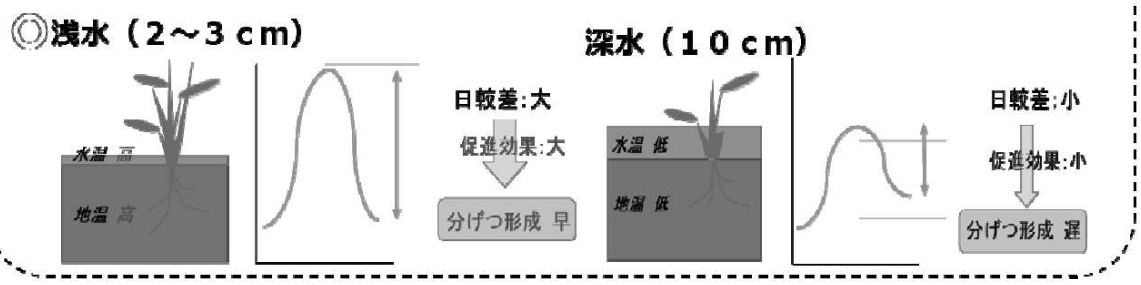
ガスの発生



天候に応じた水管理の実施



Point！ 分げつ発生を促進するには、日較差をつくること！
浅水管理の実施により、昼夜の地温、水温の温度差が大きくなります。



※ガス抜きについて

- 有機物を施用した圃場や湿田では5月中旬以降、地温の上昇にともない有機物の分解が進み、ガスが発生しやすくなり、根腐れの原因となります。ガスが発生している圃場では、晴天時に田干しを実施し、ガス抜きをする必要があります。
- 特に、除草剤（特に中期剤）の散布前には必ずガス抜きを実施してください。

中干しは、田植え一ヶ月後を目安に開始しましょう！

くわしいことは、営農指導員にお尋ねください。

JA能美営農推進課【公式】アカウント